

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

事業の概要		事業開始年度	昭和51年度	根拠法令・例規等	下水道法
総合計画	大項目	基本構想	05	生活環境政策「快適・活力」	
	中項目	基本計画	08	快適な生活が送れるまち	下水道課
	小項目	施策	33	生活排水の適正処理	
事務事業名		01	公共下水道施設整備事業		このシート作成に要した時間 6.0 時間

事業の目的		Plan
対象 (誰・何に対して)	公共下水道全体計画における備前・三石・日生・吉永処理区域内の住民	
目的 (何のために)	公共下水道施設(管渠・処理場・ポンプ場)を整備することにより各処理区域内の水洗化を促進し、公共水場の水質浄化を図り、快適な生活を送る。	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	全体計画区域内(1,590ha)に暮らす市民の快適な生活ため、公共下水道施設の早期の整備を行う。	

事業の実績			Do
細事業名	事業の説明	優先度	
管渠整備事業	生活環境の改善のため、認可区域内の下水道管渠を計画に基づき順次整備した。	◎	
認可変更委託業務	認可拡大に伴う申請書類等の作成を行った。	○	
水道管外移設補償事業	下水道管理設時に支障となる上水道管等の移設及び補償を行った。	▲	
目的を達成するため実施した事業			

事業費等		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
事業費	直接事業費	千円	477,827	777,430	487,799
	必要人員費	人	5.02人	35.495	5.17人
	費用計	千円	513,322	815,983	521,320
決算額	国県支出金	千円	154,100	233,600	194,920
	受益者負担	千円	55,235	39,029	173,571
	財源	千円	312,800	489,600	322,500
	その他()	千円			
一般財源	千円				
受益者負担比率	%	10.8%	4.8%	33.3%	

結果指標		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
結果指標	結果指標量	ha	13.0	54.4	28.9
	対前年比	%	-	418.5%	53.1%
	活動コスト	円	513,322,000	815,983,000	521,320,000
	単位当たりコスト	円	39,486,308	14,999,688	18,038,754

事業の成果						(平成25年度事業)
成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値	
		目標値(A)	65.0	68.5	72.0	80.0
公共下水道整備率	実績値(B)	63.2	66.2	77.6	到達目標値	
	達成率(B/A)	97.23%	96.64%	107.78%	100.0	

成果指標設定の考え方や説明

当事業の評価は全体計画区域の整備状況(進捗率)としており、整備済み面積を成果指標とする。
 公共下水道整備率(%) = 公共下水道整備済み面積(ha) / 全体計画面積(ha) × 100 = 1,233.7 ÷ 1,589.6 = 77.6%
 ※H25年度認可変更により 面積1,821.0 → 1,589.6haに変更

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ < ■ ← 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 ABCDE 高や中や低 いや通やい 高 低 い
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	B
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 ABCDE 高や中や低 いや通やい 高 低 い
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価 ABCDE 高や中や低 いや通やい 高 低 い
市民参画度	市民参画度	<input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	B

進行年度(H26年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止
		○				
説明	今年度は事業認可区域拡大に合わせ、全体計画区域の見直しを行った。これにより、公共下水道と浄化槽との整備に係る事業費用について比較を行い、浄化槽による整備の方が費用効果が得られる区域については計画から外したことから、全体事業の健全性に効果が得られた。					

総合評価		総合評価
下水道整備は公共用水域の水質保全及び生活環境の改善に多大な効果がある反面、施設整備には多大な費用を要することとなる。しかし、下水道は公共的な側面が大きいことから、計画された区域をバランスよく限られた財源の中で効率的かつ効果的に整備することが求められる。整備にあたりコスト削減を図るとともに、効果がより得られるよう整備計画を立案する必要がある。		総合評価 ABCDE 高や中や低 いや通やい 高 低 い

平成27年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止
		○				
取組目標	今後も引き続き、効率的で経済的な整備を目指し、早期整備を進めていく。					

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標に留意しな